

第 8 回四国中央市障害児等福祉審議会会議録

日時 平成 28 年 7 月 21 日(木) 15:00～

場所 四国中央市保健センター 2 階研修室

出席者名（敬称略）

委員

藤枝俊之、山内紀子、東誠、井上俊正、福田裕史、由良芳雄、井上陽子、立花清香

事務局

加地宣幸、戸田克明、石川光伸、曾我部公恵、中谷郁美、近藤心平

1. 開会

委員長	委員長あいさつ
-----	---------

2. 議事

(1) 第 7 回審議会会事録の確認

事務局	《会議録を説明。内容省略》
-----	---------------

委員	承認
----	----

(2) 市民ニーズの整理と施策案について（継続）

事務局	《最後のテーマについて施策案を説明。内容省略》
-----	-------------------------

委員長	「こころ安らぐ」の施策案について意見はないか。
-----	-------------------------

立花委員	保護者は、冠婚葬祭など突発的な用事の度に、子どもの預け先に困っている。日中一時支援の整備は切に望まれる。
------	--

事務局	以前は本市でも民間事業所で提供していたが、採算がとれず、人件費をすべて市で抱えていた。
-----	---

立花委員	他市ではどのように運営しているのだろうか。
------	-----------------------

事務局	おそらくは多機能型の事業所で、日中一時支援だけでなく、他の事業と兼務することで職員を回しているのだと思う。保育園で行っている一時預かりのような運営方法ではないだろうか。
-----	--

子ども若者発達支援センターで提供できれば良いのだが、現状では兼務ができるほどの人的余裕はない。

副委員長	施策については手段を絞ってしまうと動きにくくなる。様々な可能性を残した表現にした方が良い。
事務局	アンケートでは、「子どもを送迎してほしい」という意見を一定数いただいたが、希望する送迎先が様々で、具体的な施策を打ち出すことができていない。
副委員長	これまで送迎については基本的に親がすることが前提で、その後のサービスを福祉が担っていたため、送迎自体はサービスからは外れていた。新しいアイデアが必要になる。福祉有償運送は本市にはないのか。
事務局	福祉有償運送については、市町村で運営協議会を設置し、合意を得ることが必要などハードルが高い。 市内の事業者が新居浜市で福祉有償運送を行っているが、本市では人口規模を考えると採算がとれないため事業を行っていない。 デマンドタクシーもそうだが、こういった運送は既存法の縛りが厳しく、回遊性のコースをとることができない。 タクシーを利用した移動支援事業はあるが、タクシーに乗れない子どももあり、障害児にとっては有効な手段にはなっていないのかもしれない。
副委員長	タクシー業界にも、発達障害などへの理解を持つ人材を増やしていくことが必要かもしれない。
事務局	タクシーについては、運賃が高く頻繁に利用することが難しいという声を聞く。
副委員長	乗り合いとかはできないだろうか。
事務局	シェアの考え方は必要だと思う。通勤時間帯に国道を走っている車のほとんどは、運転手しか乗っていない。
立花委員	路線バスの便数やバス停を増やすことはできないのだろうか。都会から帰ってきた人が本市での移動手段がタクシーしかなく困っている。
事務局	現在のバス路線は、国・県・市の補助により維持されており、これ以上拡充するのは難しいのではないかと。新宮地域などバス路線がない地域については市がバスを運営している。
副委員長	具体的にこういったところへの送迎について需要があるのか。
事務局	今回のアンケートは対象が障害や発達課題のある子どもの保護者ということもあり、学校や病院への送迎に対する要望が多かった。

副委員長	病院については待ち時間が読めないのも、時間の制約があるような交通機関は使いにくい。 例えば、病院が出している野立看板等の公告を、ラッピングバスに変更すれば、広告費用でバスを運行することができる。こういった事業に手を挙げるベンチャーな考え方を持った人はいないのだろうか。
事務局	施策にそこまで具体的なことを書くことはできないが、可能性を残した表現にしたい。
委員長	送迎については、「新たな移動手段の創出」という施策でまとめたい。 このテーマについて他に意見はないか。なければこれまでの施策案を振り返りたい。事務局から説明を。
事務局	施策を振り返る前に、本計画における施策の体系図を作成したのでご覧いただきたい。 《体系図を説明。内容省略》 以上を踏まえたうえで、これまで審議いただいた施策案を整理したので、ご覧いただきたい。 《施策案を通して説明。内容省略》 今説明した施策の「内容」を肉付けして、計画に載せたいと考えている。計画の構成についてもご審議いただきたいので、次回の審議会では、最初のテーマである「気づき伝える」について、市民ニーズから施策までの完成イメージをお示ししたい。
委員長	これまで審議してきた施策案を振り返って、何か意見はないか。
副委員長	公共交通と移動支援については、「ともにいきる」と「こころ安らぐ」の両方に施策が挙がっているの、整理してはどうか。
事務局	先ほどの審議結果を踏まえると、「ともにいきる」の方に統合すべきと考える。
副委員長	施策の体系図に、「社会との繋がり」を加えてほしい。今のイメージでは支援者達だけの閉じた施策と捉えられるかもしれない。
事務局	社会との繋がりや協働を体系図に加えたい。
委員長	今後はこういった事を審議していくのか。
事務局	施策の内容に対する肉付けについて審議いただくことに加えて、施策のロードマップを作成していきたいので、優先順位付けについてもご意見を頂きたい。
副委員長	palette ができるまでに、何かできることはないか。最初が肝心。

事務局	何をするにしても人材が必要であるため、現段階で決めることは難しい。
副委員長	人材を育てるためにも、養成講座を開設したい。連続講座でなくてもいいので、palette のこけら落としを利用したプチ講座も考えてみたい。
事務局	「応えつなげる」に挙げている「個別支援計画の発展」については、すでに相談支援連絡会で作業を進めており、今年度中に方向は示せると考えている。
由良委員	具体的に今の個別支援計画からどう変わっていくのか。
事務局	就労支援機関へのつながりがスムーズにできるようにしたいと思っている。
副委員長	社会とのつながりはどのように持っていくつもりなのか。 何かをしたいと思っている人はたくさんいるが、どこに行けばいいのか、何が求められているのか解らない。
事務局	ボランティアセンターのような、支援をしたい側と受けたい側をマッチングするといった視点は、現在の施策案には欠けていると思う。 アンケートの中で、子どもが自立した後に、恩返しのためにボランティアをしたいという保護者の声があった。大変ありがたい意見だが、残念なことに、現在それを受け入れる体制がない。当事者だけでなく、これまで関わりのなかった人達の気持ちを受け入れられるようなシステムを作りたい。
由良委員	マッチングとまではいかないにしても、「今日ちょっと暇だから palette に行って何か手伝おうか」というような気持ちを受け入れることはできないだろうか。
副委員長	趣味や特技を生かす場所を求めている人は多いと思うが、今はその歯車が合っていない。こういったものを吸い上げるシステムを作ることも考えてはどうか。
事務局	「ともにいきる」の中に、「理解者を育成し、その中から支援者を生み出す」という施策案があるが、ここにボランティア的に参加してくれる人への窓口を広げるという視点を加えたい。
委員長	お互いに気軽につながれるような palette の新たな役割を、「ともにいきる」に加えるとともに、体系図の方でも社会とつながるイメージを示していただきたい。 次回は冊子にしていく上での構成を検討するとともに、早く取り組めるものは取り組んでいくなど、今後の見通しを考えたい。特に palette 開所までに出来ることがあればしたいという意見もあったので、早急に検討を進めたい。 事務局にあっては人材の確保も含めた具体的なタイムスケジュールを考えておいてほしい。また、本日の審議を踏まえて資料の修正等をお願いしたい。

(3) 「障害児等」の呼称について

事務局	前回の審議結果に沿い、計画の名称に「palette」を使用する方向で進めたい。仮に「パレット・プラン」としたいがどうか。 なお、「palette」自体は人ではなく「場」を現す言葉であるため、「障害児等」の呼称については別途考えたい。
副委員長	「pal」という言葉には「友だち、仲間」といった意味があり、「～pal」の集まりを「palette」というふうに定義できないかと考えた。 ただ、差別的な使われ方をされる可能性も否定できない。
委員長	本日出た意見を踏まえ、今後も検討していきたい。

(4) その他

次回日程は予定どおり 8 月 18 日（木） 15：00～、場所は消防防災センター 3 階大会議室で行う。

3. 閉会

副委員長	オリジナリティのある良い施策が増えてきたと思う。実行へのハードルは多いが、まずは皆が良いなと思えるものをつくりたい。
------	--